



これからもお元気です！ 9.11『敬老の集い』より

愛の手を

バプテスト心身障害児(者)を守る会

第193号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄 次
編集責任者 梅 木 光 男
福岡県糟屋郡久山町大字
久原 1869
☎ (092)976-2281
FAX (092)976-2172

ひとつづつもっている「いのち」

監事 中村 晴光

久山療育園のことを初めて知ったのは、私が西南学院大学の学生の頃、

西南学院バプテスト教会

の夕礼拝で川野直人先生から、「バプテストコロニー友の会」発足の話を伺ったことです。今から40数年前のことです。それ以降、私は残念ながらあまり関りを持つてきませんでしたが、教会員の多くの兄弟姉妹方がボランティアとして活動に携わってこられました。

その中の一人T姉妹が昨年3月発行の「愛の手を」の「ボランティアだより」で紹介されていました。「開園当時は…作業の量が、現在と比べ物にならない膨大なものだった…特におしぼりや布オムツ、衣類など洗濯物が山のように出てきてそれを畳むのに朝から帰る直前までかかっていたことが印象に残っています」と記されています。また、「自分も楽しみながら活動ができて重症児者の皆さんが育っていく様子を見ることができ良かった」、職員へは「皆さんの笑顔が素敵だった。挨拶や会話が気持ちよく、一度も嫌な思いをしたことがなかった。重症児者の方たちを一人の人として接しておられたことが感じられた」とも述べておられます。T姉妹のこれまでのご奉仕を深く感謝するとともに、T姉妹のご奉仕には聖書の教えと祈りがあったことと思います。

久山療育園の運営の基本方針は「キリストの福祉を土台とした運営」であり、「重症児者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく

むしろ地域の中心に位置づけられることを願う」と謳われています。

先の理事会(6月5日開催)で宮崎信義先生が、全国重症心身障害福祉協会全国施設協議会報告として厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(在宅…平成28年、施設…平成27年)をもとに全国の障害者数は総数936.6万人(人口の約7.4%) (内訳は身体障害436.0万人、知的障害108.2万人、精神障害692.4万人)と述べられ、「家族等を入れると約3000万人が関係する」と考えられる。誰にとっても他人事では無いという思いがする」と報告されていました。以前、軽い脳梗塞を患ったことのある私は、まさに他人事ではないと痛感しています。

久山療育園に園の40周年記念事業として在宅支援センターが建築され、更に重症児者と共に生きる福祉社会づくりの拠点と成ることを願っています。

「人間が「いのち」以外の「付加価値」で価値評価されるとしたら、彼らは成人しても労働能力はないし、学力・知力やスポーツ能力もない。のみならず人の全面的な介助なしには生きられない彼らは「価値ゼロ」である。彼らにあるのは「いのち」そのものだけである。「いのち」しかもっていないのだから、彼らが大事にされるということとは、だれもがひとつづつもっている「いのち」が大事にされるということであり、彼らが認められないとしたら「いのち」が認められないということになる。」高谷清著「はだかのいのち」より最近、深く心に残り、考えさせられた言葉です。

主 張

「第42回開園祭の開催に臨んで

―創立の原点に立ち返ること―

理事長 山 田 雄 次

■久山療育園とバプテストコロニー友の会■

久山療育園の働きを覚え、ご支援下さっている皆様をお迎えし第42回の開園祭を開催出来たことに感謝致します。開園祭を行うことの意義は自分史をとおして創立の原点、その精神と理念を再確認し、それを継承してゆくことであるという認識に立って今年も皆様と共にその歩みを省みたいと思います。

久山療育園の開設は1976年ですが久山療育園重症児者運動の起りは開設の年から10年遡る1967年の現法人の前身(社会福祉法人としての認定前という意味)であるバプテスト心身障害児(者)を守る会(以後守る会)の発足とその2年後に発足した支援組織としてのバプテストコロニー友の会(以後コロニー友の会)との協働による10年の歩みに基礎づけることが出来ると思います。「守る会」は運動の理念づくりを始めとする事業の開設に向けて必要な諸課題の取り組みを進め、コロニー友の会もその施設開設に向けた「守る会」の働きを支援する取り組みを進めることで事業の開設に必要な体制が整い開園を迎えることが出来たからです。

久山療育園重症児者運動の特色

はそれぞれが自立する中で、「守る会とコロニー友の会」の両者がそれぞれの立場から「重症児者と共に生きる社会づくり」という同じ目的に向かって、一体的な連携と協力によって運動が推められ10年の歩みを経て1976年念願の開園を果すこととなったということです。

■バプテストコロニー友の会のはじめとその支援会活動について■

コロニー友の会はその趣意書(「コロニー友の会の性格と目標」)に示されているように「①心身に障害をもつ人々やその家族の重荷を共に担い人が人として尊重される社会をつくり出すための運動体であり、②その運動を具体化して推進するために久山療育園の建設を助け、その運営に物心両面からの支援を行うことを目的とする」バプテスト教会から生まれた支援組織です。

はじめは10数名の集まりからのスタートでしたが学習活動をベースに支援組織の拡充強化と街頭募金とボランティアの養成の取り組みを中心に支援活動が行われ久山療育園の開設と開設後の運営支援に大きな貢献がありました。

1973年に村上寅次先生を会長とする新しい体制のもとで先に

記したコロニー友の会の活動方針が策定され「5000人のバプテストコロニー友の会の実現」、「5000人の施設訪問ボランティアの確保」、「年間500万円の久山療育園献金の達成」等々の目標をかかげて活動が強化されました。目標が大きく達成は出来ていませんが、開園時人手不足の中、入所者の介護の支援も含めたボランティアの人的支援、1972年の第1回の街頭募金の実施以来これ迄の実施回数が1000回を越えていること、更にこれ迄の久山療育園献金が累計1億500万円に達していること等々、50年におよぶ支援活動の継続は稀有なこととして特筆すべきことだと思っております。コロニー友の会のような働きについては久山療育園献金の総額が1億円に達した2002年に28年間にわたってコロニー友の会から受けた支援に対し、川野直人理事長(当時)から「コロニー友の会の存在は、これ迄の久山療育園の歩みにおいて常に希望と力の源泉でした」という感謝のことが贈られており、今日も同様の認識をもっています。

■久山療育園の起りとこれ迄の歩み■

前述の現法人の前身、バプテスト心身障害児(者)を守る会は川野直人、叶昌全、宮本要の三牧師の発議でキリスト教社会福祉事業としてのコロニー建設を目ざし1969年に立ち上げられました。そのための建設用地として熊本県の荒尾市の山地(6000坪)

を資金の借入によって取得し、整備のためのワークキャンプ(1971年)も行われましたがはじめに計画されたコロニー建設論は幼児から高齢の障害者を社会から隔離する形での楽園づくりということであり、取り組みが進められてゆく中で後に軌道修正され、事業の対象も重症児者の医療福祉に絞られることで方向転換することになりました。思いを尽くし、協議をつくしてたどりついた結論をひとことと言うのは乱暴だと思えますが聖書のことば「見えるものではなく、見えないものに目をそそぐ」(Ⅱコリント人への手紙四章十六節)に基礎づけられ「重症児(者)が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、地域の中心に位置づけられる福祉社会(きょうどうたい)づくりを目ざす新しい創立理念へと止揚され、開かれた重症児者施設づくりの取り組みが本格化し、1976年に待望の開園の運びとなりました。

久山療育園ははじめ50床規模の重症児施設としてスタートしましたが、開かれた施設として開園早々福岡県と重症心身障害児緊急一時保護(今日の短期入所)契約を結び、更に1990年には全国5ヶ所の重症児(者)施設で行われた通園モデル事業に参画、2008年には施設の全面改築工事の完成を機に名称を「久山療育園重症児者医療療育センター」に改称、2016度には創立四十周年を迎えるにあたり、記念事業として在宅支援強化の新しい拠点づくりとして「在宅支援センター」を

建設し今日に至っています。

現在では皆さんご承知のとおり契約・措置入所が88床、短期入所が6床で共同生活援助事業の「重症者ホームひさやま」の入居10床を加えると104床の規模に拡大し、更に1日平均30名前後の通所事業の利用者を加え施設を挙げてフル稼働している現状です。重要なことは入所・入居のベッド数が常に満床の状態になっているという事は自明なことではなく地域在宅の重症児者の利用者に施設を開放し積極的に働きかけ、平常のつながりを密にしてゆく不断の努力が成されないと出来ないことであり、重症児者医療療育センターとしての機能が最大限に活用されている実績とし園の現状を評価しています。

これからの歩みについては重症児者医療療育センターとして働きの一層の拡充強化が求められてゆくこととなりますがそのことのためにも久山療育園重症児者運動の特色である事業体としての守る会と支援組織としてのコロニー友の会(地域・市民の方々も含めた)との連携の強化の必要を強く感じます。創立の原点を相互が再認識し新しい協働の歩みを踏み出したいと心から願います。(第42回開園祭の式辞より)

制度・情勢

第35回バプ協職員研修会

センター長 宮崎信義

バプテスト教会に連なる社会福祉事業団体連絡協議会研修会は、1984年8月に第1回が京都市で開催され、その時のテーマは「キリスト教社会福祉とは何か」でした。それから32年を経て、今年は2018年8月6・7に第35回研修会が同じく京都市でもたれました。

障がい児者福祉・児童福祉・高齢者福祉に携わる法人施設の学び合いです。今年の主題は『今日の若者の中に見る「傷」と「希望」』（基調講演、才藤千津子西南学院大学神学部教授）と各施設からの実践報告でした。障がい児者福祉・児童福祉・高齢者福祉それぞれに時代的変遷や求められる内容が変化する中で、各法人施設理念にかんがう働きが報告されました。その要旨を述べる中から、久山療育園重症児者医療療育センターの現状と課題を考えてみたいと思います。

基調講演『今日の若者の中に見る「傷」と「希望」』大学におけるキリスト教教育の現場から

(1) 教育とのかかわり。キリスト教徒ではない職員が、キリスト教施設でどうやって働きを持てるか。(2) 若い人たちが進みなくなる社会福祉とは。福祉の現場も人材(財)が不足している。これからの育成についての提言。

分団討議発題「実践報告」キリスト教社会福祉の現場から

1. 高齢者福祉の立場から

「地域包括支援センターにおける活動実践」次世代の担い手となる学生の教育と連携発題者・めぐみ会

① 粟田地域包括支援センター大切にしていること「担い手(人材)の育成を果たす機関であるという意識」。圏域等にある教育機関へ積極的に出向く。社会福祉等を学ぶ実習生を積極的

に受け入れている。

② 高齢者を取り巻く問題

(1) 認知症のこと…地域支援包括センターとして…教育機関や地域へのアプローチ。(2) 災害のこ

被害。

(3) 地域包括支援センターの活動実践…教育機関に対しての普及活動。地域住民に対しての普及活動。学生と連携しての普及活動。「教育・つながりの強化・専門職の養成(知識と実践)」

2. 障がい者福祉の立場から

発題者・キリスト者奉仕会

バ協協は、障害者福祉への取り組み、高齢者福祉、児童等、幅広い取り組みの中でキリスト教を基盤とした事業体として取り組む仲間の集まり。その基本理念は、その中心に障がいのある人たちが、お年寄りの人たちが、子どもたちがいる。人間尊重(人権の視点)、かけがえのない命が中心にあること。

キリスト者奉仕会の取り組みは、どんなに重たい障がいがあっても一人の人として尊重され、その人がその人らしくあたり前に暮らしていくために仕えることです。

事業内容は、①就労支援の場…就労移行支援事業、就労定着支援事業、就労継続支援事業。

②活動の場…生活介護事業、地域生活を支える場(相談支援事業)。

福祉ホーム、グループホーム。

3. 障がい者福祉の立場から

『重症者ホームひさやまの現状と課題』開設後3年を経過して(抜粋)

発題者…金子政彦地域療育部長(久山療育園)

1976年に久山療育園が開園、今年で42年目となる。2015年に重症者ホームひさやまが開設し、3年が経過した。医療スタッフの配置義務がない、共同生活援助事業(グループホーム)で、重症心身障害者の方々を支えるということは、これまで、慎重に考えられてきた。久山療育園では、重症児・者の方々の地域生活、自分らしさ、自己決定、自己実現を考える上で、長い議論を重ね、3年前に、重症者のためのグループホーム開設に至った。この3年間を振り返り、現状と課題を考察する。

とらえること」などが謳われてきた。(2)さまざまな困難があったことを伝え聞くが、設立に働かれた方々は目の前の困難に惑わされ、あきらめるのではなく、重症児・者の方々に対して、目に見えない神の愛が注がれていることを信じ、その神の愛を具体化しようとされた。その先輩方の信仰と働きがあり、今の久山療育園が存在する。(3)重症者ホームひさやまも、開設の際は、さまざまな困難があった。しかし、私たちには、久山療育園の歴史とその理念がベースとしてあった。重症者ホームひさやまの理念も、療育園の理念を継承しつつ、「親子のつながり」、「家庭的な雰囲気」、「地域との交流」、「自分らしく」といった拡がりを持っている。

② 入居者の生活と勤務体制、③ 入居者の状況、④ 開所後3年間の医療的ケア・医療支援の実際、⑤ 行事・地域との交流、⑥ 重症者ホーム職員配置の工夫、⑦ 地域生活支援拠点の整備(2020年度までに、各福祉圏域で…)、⑧ 重症児・者の意思決定支援、⑨ 重症者ホームひさやまの今後の課題、⑩ 精神を受け継ぐ者として

4. 児童福祉の立場から「選
びやすい保育園・認定こども園
をめざして」

発題者―相愛会 相愛保育園

① 都城市(約16万人)の取組
み・園長会(加盟39ヶ園)、② 採
用までの不安を払拭する為の取
組み、③ 自分の園さえよければ
では、本当の児童福祉の発展に
はつながらない。④ 今後の展望
と課題…(1)わが国だけで考える
時代ではない。(2)子どもの幸せ
のために何ができるか。

分団討議グループ討議(抜粋)

① 自己紹介・感想…(1)若者
の「傷」と「希望」…人材育成。自
己実現を望むが傷つきたくない。
(2)今日的な教育の在り方…対人
関係から地域・隣人とかかわつ
ていくこと。(3)各法人の実践を
通しての発題が定着しつつある。
4)情報を得ること…SNSな
どで個人情報拡散してしまう。
② 講師から…教育を通して社会
で生かされる学生の育成と働き。
(1)問題点…情報(スマホ)や生活
(コンビニなど)で人に頼らなく
ても生きていける社会。(2)しか
し、物質的なものだけでは本当
に生きていると言えない。物が
あふれていることに反して、魂

の飢えがある。(3)対人関係の不
安↓モデル(生き方)を示す。評
価せず、まず受け止める。

③ 人材の育成と定着…(1)職員の
安心(処遇など)。職員確保(学
校訪問、施設紹介)。(2)職員の
定着率を高める方策…処遇改善
や達成感。

おわりに

以上、障がい児者福祉・児童
福祉・高齢者福祉それぞれに
重要な課題を示され、真正面か
ら取り組んでいます。利用者
との連携や行政・制度の制約と
人権や生命尊重、一人一人の発
達支援から人材育成まで協議
は尽きない思いが致しました。
歴史を概観致しますと、障がい
児者・児童・高齢者、いずれも
平和が失われる時に弱者として
切り捨てられた負の歴史があり
ます。福祉に働く者としてだけ
でなく平和を実現する者(マタ
イによる福音書5章9節)とし
ての使命も与えられています。



藤田 英彦

「見えるものではなく、見えないものに目
をそそぐ、見える者は一時的であり、見えな
いものは永遠に続くのである。」《Ⅱコリント
4・18》

久山療育園創立以来の元理事長川野直人先
生が急逝された7月6日の後に、先生の在任
中に、川野先生の発案で作成された寺園喜基
元西南学院理事長編集の新教出版社刊『ひびき
あういのち―重症児者神学の道』に寄稿された
川野先生の「天国におかえしました」(34
45頁)を改めて読み返した。それには、愛する
なおみちゃんが天に召されて暫くしての川野
先生の心情を吐露した手記、久山療育園設立
に至るいきさつ等が切々と書かれてある。

多くの人から祝福され「なおみ(ヘブル語で
楽しみ、喜び)」と名付けられた吾子が重症児
であることを知ったご夫妻は、なおみちゃん
の将来、またこの子を抱えて牧師、伝道者に
なれるか、九大病院、京都のパプテスト病院
などあちこちの名医を訪ね歩き、心中を考え
るほどに行き詰まり、迷いに迷って苦しんだ
末、出会った聖書の御言葉が「見えるものには
なく、見えないものに目をそそぐ。見える
ものは一時的であり、見えないものは永遠に
続くのである。」(Ⅱコリント4・18)であつ
たということである。

『広辞苑』(岩波書店)によれば、「障害」に
は「さわり、さまたげ、じゃま」という意味が
あり、従って「害者」とは「身体器官に何らかの
さわりがあつて機能を果たさない者のこと」と
ある。現代は、機能万全主義の時代、また実
証主義の時代と言える。その典型は先の戦争
におけるナチの思想主義であり、先般の相模
原の障害者施設元職員の青年の言葉と行動で
ある。「時代の要望に寄与できないものは『害
』であり、抹殺すべきだ」能力万能主義、力と富
が凡てであり、今、目に見えるモノの世界に
目を奪われていて現代が生み出している分
離と非寛容の世界、No.1発言に見られる差別
思想がはびこる中に在って、私たちの生きる
価値はどこにあるか? 聖書は、創世紀の冒頭
に「初めに神は天地を創造された。地があつ
た。神は光を見て、良しとされた。」(1・1
3)「神はご自分にかたどって人を創造され
た。とある。聖書が伝える神によって良しと
されたすべての人間の平等に眼を注ぎ、共に
生きることをモットーとして、川野先生を中
心に「社会福祉法人パプテスト重症心身障害児
(者)」を守る会が設立され、そして「ミットレー
ベン(共に生きる)」を台言葉に「障害者を真ん
中に」の運動を展開し、久山療育園が設立され、
健全な運営が進められ今日に至っている。

1976年6月7日に建てられた久山療育
園の礎石に「私たちは今、全能の神を礼拝し、
主イエス・キリストの限らない愛とまなざし
の中で、この所において重症心身障害者の開か
れた人生が始まることを願って、《中略》礎石
をここに据えます」とある。先ず神を神として
礼拝する所から久山療育園は始まっている。

支援者からの声

「あなたの隣人は誰か」

監事／西南女学院大学院長 田中 綜二



私と久山療育園との初めての係りは、1968(昭和43)年当時、西南女学院事務局長に就任された松尾孝平先生からであったと記憶しております。先生は当時、久山療育園の監事に就任なされ、何かと心を砕いておられました。そして月日は流れ、私が久山療育園の監事に就任致しました。久山療育園へ伺いますと、正面玄関に飾られている額を見ます。すると、その額にございます創立の聖句、コリントの信徒への手紙二4章18節「わたしたち

守るようにしており、久山療育園のこと、女学院のことを祈っております。

るのでございます。

良きサマリア人のたとえのごとく、隣人であることとしる

それから、久山療育園事務局長をなさいました中井

しは、介抱することから始まっています。まさに、人の傍らに

力先生(当時、富野教会会員、後に西南女学院第16代理事長)と同じく久山療育園事務局長をなさいました鈴木

に近寄ることからなのです。隣人になれなかった祭司やレビ人の行動をみると、まさに哀れで

伸先生といった方々と親しい交わりをいただき、折にふれて久山療育園の歴史について伺うことができました。

また、山田雄次理事長先生とは、北九州地方連合での交わりをさせていただき、多くの貴重な教えをご指導いただきました。私は本当に不思議でなりません。これも神様の導きと温かい執り成し

久山療育園の40年の歴史は、まさに良き隣人たる証であったと思います。ご昇天なさった名譽理事長の川野直人先生は、誰よりも先頭に立って、それを実践されました。障害を捧げられ

た。また、山田雄次理事長先生とは、北九州地方連合での交わりをさせていただき、多くの貴重な教えをご指導いただきました。私は本当に不思議でなりません。これも神様の導きと温かい執り成し

が、介抱することから始まっています。まさに、人の傍らに近寄ることからなのです。隣人になれなかった祭司やレビ人の行動をみると、まさに哀れで

と考えると、共に生きる者であり、隣人であるしとし「介抱する者」であり、近寄るものとなって、心と心の響き合う「いのち」とならねばならないと思っております。

句の揮毫をされたのが松尾先生なのです。先生は西南女学院を退職なさる際にも、額を女学院に寄贈くださり、その額は私がいま院長室に掲げてあります。それはマタイによる福音書6章33節「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」を表した書が入った額でございます。拝見する度に自分の不徳を恥じます。しかし、私は、院長室での朝の祈りの時は欠かさず

が、介抱することから始まっています。まさに、人の傍らに近寄ることからなのです。隣人になれなかった祭司やレビ人の行動をみると、まさに哀れで

生方と共にあることの幸いを感じて、私たちの隣人として、先

を必要とする人の隣人とならねばならないということであ

2018年開園祭のご報告



久山療育園の創立記念を祝う「開園祭」。

今回も入所・通所利用者と、そのご家族、ボランティア、職員が協働して準備を行い、回を重ねて42回目となった同行事は、何とか天候も回復した9月22日土曜日に開催されました。

今年の開園祭で設定された新たな目標は『地域の方々への貢献』でした。『社会福祉施設として私達のできる何か』を、開園祭にいらっしゃった地域の皆様へ体験していただき日々の暮らしや緊急の際に役立てて頂きたいとの思いから、新しい取り組みとして参加者が気軽に体験できる『もしもの際の蘇生法紹介』、『災害食・福祉食フェア』を開催しました。以下に開園祭当日の様様をご紹介します。



感謝礼拝では、活動 5000 時間をはじめとするボランティアさんや、勤続職員への表彰が行われました。



利用者さんも楽しく開園祭の園内を回っています。



バザー会場は例年どおりの大人気！

<社会貢献活動としての取組>



通所のバザーも元気に開催。素敵な作品がたくさん。



開始早々、多くの方に参加いただいた「もしもの際の蘇生法」、「災害食・福祉食フェア」や「骨密度測定」。今後も取り組みを続けたい企画です。合わせて200名以上の方が参加されました。





公開療育では、音楽に合わせて絵の具や泡の感触を楽しみながら花やちょうちょを描きました。一人ひとりが工夫をこらして素敵な作品が完成しました。



2階では喫茶にもぎわっています！



利用者、ご家族、ボランティア、職員が集まり、大接戦を繰り広げた「ふれあい：ポッチャを使ったゲーム大会」得点がリアルタイムで実況されてスリル満点でした。



あっという間に1日が過ぎ「閉会の集い」にも多くの方が参加されました。

当日お集まり頂いた皆様、準備に関わりバザー献品を届けていただいた皆様を始め、運営に関わって頂きました全ての方に、ここに改めて感謝申し上げます。
来年もまた楽しくお会いできますように！

第42回 開園祭表彰者

ボランティア表彰者

5000時間	甲斐悦江 様
3000時間	稲石三代子 様
2000時間	北古賀由美 様
500時間	山崎 工 様
	中塚晴子 様

お働きに心より感謝申し上げます。

永年勤続表彰職員

25年	山田いずみ
	塩川恭英
20年	小脇 勇
15年	島津洋昭
10年	森奈緒美、佐藤弘章、知念勇一
5年	渡辺浩行、岩下秀俊、山藤朋子
	入岡陽平、松永智行、櫻井あや
	森山由佳、松川 寛、古城佳彦

勤続25年

勤続25年を表彰して頂き、ありがとうございます。

本当にあつという間の25年でした。入職した時は、まだ赤い屋根の古い園舎で、みんなでピクニックや海水浴に行ったりしていました。いろいろな方と出会い素敵な思い出がたくさん出来ました。久山

勤続20年

大型免許を持つているという事で久山療育園に呼ばれ、20年が経ちました。不思議な導きの中で、重症心身障害児者との関わりが始まり、多くの学びをさせて頂きました。利用者の笑顔に癒され、保護者や職員の皆さんに支えられて今まで働いてこれたことに感謝しています。これからもよろしく願います。

(事務部 小脇 勇)

(療育指導室 山田いずみ)

に入職しなければ、こんなにたくさんの方と出会うことは出来なかったと思います。振り返ると、楽しかったこと、悲しかったこと、一緒に頑張ったこと、乗り越えてきたことなどたくさんある場面が浮かんできます。どんな時でも利用者やご家族、ボランティアさん、一緒に働く職員、そして自分の家族からたくさんパワーと優しさを頂き、支えて下さったことにとても感謝しています。これからも笑顔と元気をモットーに久山に関わって下さる方々が幸せを感じられるように努めていきたいと思います。

ひかり棟の活動

猛暑の今年も元気にプール！

今年の夏は、平均気温30度を超す猛暑で、熱中症対策の為、夏休みの学校プールも中止になる等大変な季節になりました。そんな中久山療育園でのプールは開催されるのかとても心配されましたが、無事に開催される事となり、いつ入れるのかと園の皆さまは、そわそわしながら待ちわびておられました。今年は8月14日と17日の2日間プール活動する事が出来ました。外の床は太陽の熱で火傷しそうな程熱く裸足で歩けない程でした。そこに水がはられたプールが準備され開催されました。水温も冷たすぎずバツチリです。いざプールが始まり皆さん準備された水着に着替え、体を水温に慣れる為にプールの水をお掛けするとびつくりされる方や気持ちよさそうな表情をされる方等様々な反応をされていました。

いざ浮き輪を付けてプールに入られると、浦さん、山口さん、緒方さんは水面に浮きあがり職員と一緒に水面を泳ぐと、くつろいだ表情で水の流れを楽しまれました。濱口さんは、歓声をあげて満面の笑みで水を弾いて遊ばれた水面に潜ったりしてはしゃがれていました。

ひかり棟最年少の西坂さんは、最初は怖がり緊張されていましたが、職員と一緒に水に浸かって浮いていると、だんだんと慣れて来られ浮き輪を持って笑顔で泳がれるようになっていました。

そして水遊びが大好きで一番楽しみにしていたであろう佐伯さんは、水に触れてゆつたりとくつろがれてました。

川名さんは久山療育園に入所されて初めてのプール活動でした。保護者の方から「介助無しでも潜って泳げますよ。」と教えて頂き、ゴーグルを付け職員は手を離し側で見守っていました。

すると顔を付け息継ぎをしながら上手に泳がれており、とても驚きました。

今年の夏は大変暑く夏バテしそうでしたが、利用者みなさんは暑さや疲れを吹き飛ばしてはしゃいでいたので大変嬉しい気持ちになりました。蒸し暑い夏がまだ続いていますですが、暑いからこそできるプールで遊ぶ事ができてとても楽しい思い出ができました。

(ひかり棟介護福祉士 村上貴紀)



〈前ページ下段より続く〉

勤続10年

前職でJA購買システム開発にたずさわり、JA宗像の業務システム開発を行っていた際、久山療育園の改築の計画があるので、ホームページをはじめとして関わりを持って行ったのが私と久山療育園との始まりだったと思い返されます。

その後センター全体のOAコーディネーターとして端末の設定等を行う中で、センター全体のシステム開発を依頼されました。

この10年の内に、施設全体としてもコンピュータをはじめとするIT機器の利用が促進されていきましたが、今後40年を見据えた次期システム構築プロジェクトが現在推進されています。

初代理事長川野先生とバプテスト連盟に属する牧師が発起人となつて起こされた久山療育園が、重症児者とその家族そして社会の福祉拠点として今後更にその働きの理念を踏襲していくことが出来るようにそして、キリストに属する教会の伝道拠点として今後も活動できるようなキリストの愛に根差した施設拠点となれるように祈りながら関わっていければと考えています。

(事務部 知念勇一)

勤続5年

入職した2013年3月8日、当園前の県道沿いにあつた桜の木々が花を付けていて、新設された横断歩道を心躍らせて渡ったことを記憶しています。配属は事務部総務課。今までの旅行会社での経験、医療法人でのキャリアを活かしてスムーズに業務を行うのが、私の描く青写真でした。ところが、いざ蓋を開けてみると、人生経験や過去のキャリアが通用せず、戸惑いを感じる事がありました。現在は利用者、保護者、ボランティアさんの笑顔や職員からの叱咤激励により、何とか業務をこなしています。今後の目標として「久山魂を持つこと」を掲げます。久山魂とは、どんなときも笑顔と平常心を失わず、魂が宿った仕事を楽しく

めぐみ棟の活動

「ホテルビュッフェで大満足」

7月、宮崎宮近くにあるリーセントホテルへ行ってきました。今回の目的は、おいしい食事をビュッフェ形式で楽しむこと。レストランへ予約すると、場所をとってくださり、車いすでも広く使うことができました。もちろん、お食事は、前菜・肉料理・魚料理・デザートなど、40種類以上の中から、好きなものを選び、食べることができました。美味しいものを食べるととにかくみんな笑顔・笑顔・えがお。楽しい気分をみんなで味わうことができました。今度は、どこに行こうか楽しみにしててください。



「エステ三昧の女子旅」

10月、あいにくの台風予報の中、女性陣4人で香椎浜イオンに行き、エステを楽しんできました。「ハンドにする?」「フットにする?」とコースを選ぶだけでも楽しそうな様子。それぞれ好みの部位をオイルマッサージして頂き、「ふふふ」と思わず笑ったり、うつとりとした表情で気持ちよさそうでした。そのお店はここ数年、園外活動で利用する事も多く、お店の方も一人一人に応じた姿勢でマッサージをしてくれたり、「肩が凝っていらつしやいますね」など優しく声をかけてくださいました。また、いろんな方と利用したいなと思いました。



(療育主任 陣内晶子)

安らかに 笑顔の素敵な福美さんへ

楠田福美さんは1976年11月に久山療育園へ入園されました。

ひかり棟でローリングでホワイトボードの所まで行き勤務者の名前を見に来ていた事、スタッフがハグをすると、手の頭の後ろにまわしてギュッとなかなか離してくれない愛情表現がとてもうれしくて懐かしかったこと、転棟されたときには、しばらくは緊張した表情が見られる事もありましたが、毎日話し掛けていると少しずつですが強張った表情が和らいできたことなど、たくさんの事が思い出されます。

今年の4月は61歳の誕生日を迎え、誕生会ではたくさんのお祝いをしてもらいとても嬉しそうでした。

福美さんは今年から中学3年生。学校の前日、「明日は学校ですね。」と話しかけるとにこにこされていたので学校は楽しいのだろうなと思っていました。授業当日、担任の先生がいらっしゃると穏やかな表情で先生と共に授業に向かわれ、授業で先生と一緒に製作された麦わら帽子がとても似合っていました。今年の10月には修学旅行に行かれる予定でもとても楽しみにされていたのでも残念です。

いつもぐふつと声を出して笑っていた福美さん。突然の別れでとてもさみしいけれど、福美さんの事を思い出し、みんなでたくさん思い出を思い出しました。

ひかり棟・めぐみ棟そして久山療育園のスタッフみんなが福美さんの思い出をいつまでも忘れません。

福美さんの素敵で笑顔で天国から見守っていて下さい。福美さん本当にありがとうございました。

(めぐみ棟看護師 永沼清美
介護福祉士 藤山知美)



通所で頑張っています

**笑顔いっぱい！
通所夏まつり**

6月28日、今年も毎年恒例の夏祭りが行われました。第1療育室から第2療育室へと、どの店舗も賑わいを見せ所狭しと並んでいました。利用者様もいつもと違う浴衣や甚平姿に身を包み、夏の風物詩を感じながら楽しいひとときを過ごされました。

今年初登場の「野菜釣りコーナー」では、色々な種類の野菜が次々と釣られ、大きな歓声に包まれていました。毎年人気の「射的コーナー」でも、お母様方の熱い意気込みが感じられ、盛り上がりを見せていました。

第2療育室へと向かう渡り廊下は動物達で賑わうジャングルへと変身し、動物に変装された利用者の方々が出迎えてくれました。療育活動の中で楽しみながら作成された動物達は、皆とても生き生きとしています。廊下を抜けた先には、オシャレなHISAYAMA CAFEがオープン♪普段と違う雰囲気第2療育室には、ささやかな軽食とドリンクを用意させて頂き、ほっと一息休憩タイムとなりました。

今年の夏祭りもあつという間の日でしたが、皆さんの笑顔や笑い声に包まれた、とても思い出に残る一日となりました。
ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

(通所看護師 國崎 愛)



狙って狙って～！



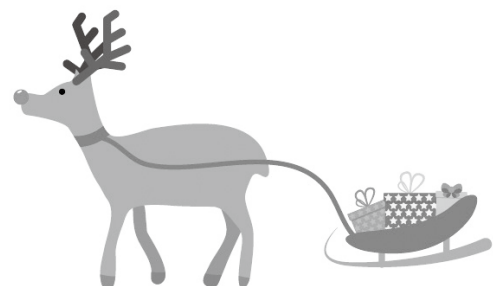
何が釣れるかな～～

2018年度 クリスマスのご案内



2017年クリスマス礼拝より

- 入所クリスマス
12月11日(火)
10:30分より
 - 久山療育園クリスマス礼拝
12月13日(木)
13:30～14:30
*礼拝後、祝会実施予定
 - 通所クリスマス
12月14日(金)
10:30より
- *多くの皆様のご来場をお待ちしております。



重症者ホームひさやまより

こんにちは！重症者ホームです。今回は8月12日に行なったBBQと素麺流しのことを紹介します。

暑い日が続く中、ピロティにて「素麺流し・BBQ」が開催されました。子どもから大人までたくさんの方に参加していただくことができ、たくさんの方の笑顔を見ることが出来ました。みんな、炭火で焼かれるウィンナーやプルコギを食べBBQを堪能し、普段と違う雰囲気味わっていました。古賀さんは炭火の前まで行き、「早く焼けないかな」と炭火をジッと見たり、井手さんは「お肉が食べたい！」とBBQを満喫していました。また、流し素麺の方へ移動しては、流れてくる素麺を不思議そうに眺めて素麺が流れていってしまう事も…。ですが、素麺が流れてくるとみんな目を輝かせて一生懸命すくっていました。今年は初めてスタッフも浴衣を着て行事に参加し、夏らしい雰囲気味わうことが出来ました。

気温的に外での行事の開催が危ぶまれる所でしたが、当日はやや曇り空、気温も少し涼しく感じられ外で食事を摂るには良い機会でした。最後に夕立が降り、地域の盆踊りに参加出来ず残念でしたが、急遽手持ち花火に予定を変更し花火を楽しみました。たくさんの方の笑顔が印象に残る行事でした。



上手にすくえるかな？



浴衣と甚平でそうめん流し♪
あ！素麺が流れてきた！



炭火で焼くお肉は美味しそう！
早く食べたいなー

9月には、開園祭がありました。開園祭に向けてホームでは、観賞用多肉植物やデコレーションハンガー、ポチ袋等の出品物を頑張って製作をしました。多肉植物は株分けをし、1から根だしを行い、大きく成長した多肉植物を販売しようとみんなで育てました。また、多肉植物の容器は入居者さんがデザインをしたり、実際にペンを持って書いたり個性的な容器に仕上がりになりました。ポチ袋やしおり、メッセージカードは紙すきを行ない、「どんな色にしようか」「スパンコールを入れたほうが可愛いんじゃないか」とたくさん話し合い、きれいな色の作品が出来上がりました。因さん・篠原さんの女性二人が作った時には「少し花紙を入れる量を少なくして淡い感じにしたい」との意見があり、とても可愛い淡い感じに仕上がりました。今後も入居者さんの笑顔がたくさん見れる行事を計画していこうと思います。

(介護福祉士 進藤務・前田宏美)



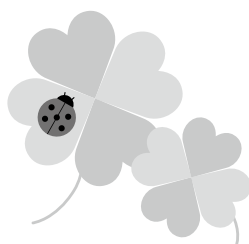
手持ち花火きれいだね



株分けした多肉植物を
植え替えるよ！



土をかけて植え替え完了！！



バプテストコロニー友の会からのお知らせ

第29回久山療育園ワークキャンプに参加して

今年も100名を超える方々と共にワークキャンプに参加することが出来て感謝でした。受け入れて下さった久山のみなさま、様々な形でサポートしてくださったみなさま、ありがとうございます。

私自身が年少少女の頃に出会った久山療育園に我が子にも出会って欲しいと願って、14年前初めてワークキャンプに参加しました。ところが！です。小学生の息子は草取りワークは5分で飽きました。虫取りしたり、走り回ったり、いたずらして回ったり。話は聞かないし、優しいお姉ちゃんや遊んでくれるお兄ちゃんたちを相手にやりたい放題。「あゝ、時期尚早だった。大して役に立てなかつたし。もう少しキャンプの意味が分かるようになってから参加した方が良かったかな」と迷いました。でも、暑い中草取りしたり、街頭募金したりと、特別子ども向けの面白いプログラムが用意されているわけでもないのに、子どもたちは即答で来年も行く！と。その声と、みなさんが温かく見守ってくださったおかげで、それから毎年参加することが出来ました。

「久山のために役に立たなくちゃ」「久山のことを子どもたちに伝えなくちゃ」という私の思いを超えて、子どもたちは久山と出会い、そこで自然に共に育っていききました。参加者の方々と一緒に汗を流し、交わり、ご飯を食



べる。利用者さんや職員の方々と戸惑いいつも出会い、受け止めていく。一つ屋根の下、直接関わらなくてもお互いの存在を感じながらその時を過ごしていく。その輪の中で、自分も共に生きる仲間として受け入れられていくと、全身で感じ取っていたのだと思います。その子どもたちが、今では良く働き、小さい子どもたちのお世話をし、いろいろな方々との出会いを喜んでる様子を見ると、嬉しく、また感謝な思いでいっぱいです。

（長住バプテスト教会 鈴木千鶴香）



2018年末コロニー友の会街頭募金を下記の日程で行います

（場所）天神大丸デパート前 13時～15時
（日程）12月15日（土）・22日（土）・23日（日）・24日（休）
25日（火）・26日（水）・27日（木）

*日程については雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承下さい。
たくさんのご参加をお待ちしています！

当日の問い合わせ・連絡先

久山療育園 ☎092（976）2281



各部の取組の紹介

栄養課よりこんにちは！

当センターの栄養と食事

当センターでは、「入院時食事療養Ⅰ」体制で栄養・給食管理を行っています。

入所利用者の平均年齢は43歳、平均体重36kg、平均給与栄養量は1200kcal、蛋白質45gです。

利用者の食事の内容は表に示す通り、食種・形態・個別指示と個々に異なります。また口腔機能に合わせた嚥下調整（とろみ・平固化）が必要です。

入所者の食形態では、押し潰し食（歯茎や舌で潰せる）の方が多く44%を占めています。個別指示は全体で154件に及びます。そして病症状、治療を目的にした特別食の方は、現在7名です。

通所者は、在宅の生活が中心ですので、できるだけ家庭の食事形態に近いものを提供したいと考えます。

入所利用者

食種：常食・軟菜食55名／87名
流動食23名（食事併用含む）、薬価流動食1名、加算特別食8名。
形態（常軟食55名）…咀嚼12名（22%）、押潰し24名（44%）、ペースト11名（20%）ムース8名（16%）
個別指示：84種類 154件

通所利用者

食種：常食・軟菜食57名／66名
流動食9名（食事併用含む）
形態（常軟食57名）…咀嚼18名（32%）、押潰し15名（26%）、ペースト18名（32%）、ムース6名（11%）
個別指示：8種類74件、*ペースト食に胃瘻・ペースト食含む

“食”のこだわり・楽しい食生活

利用者の方は、摂食において機能面や食事に要する時間が限られますので、摂取可能な食分量の中で栄養バランスを満たす必要があります。食材は、安全性の高い国産（魚肉類）、地産地消（野菜・果物類）、精製・漂泊されてないもの、自然調味料や出し（昆布・カツオ・煮干し・鶏がら等）、栄養価の高いもの（雑穀米・胚芽米等）を優先して使います。調理の作業量は増えますが、自然素材、季節のもの、安全・高品質・栄養価の高い食事を提供したいと考えます。

一方で、拒食・小食の方等、食事で栄養が十分摂れない方には、高栄養食品や栄養補助食品を使用する場合があります。食品会社から一括納品する方式を取らず、食材ごとに業者を選定し、中でも魚屋さん、米屋さん、肉屋さん、野菜屋さん、牛乳屋さん等は職人さん級のこだわりや品質管理をしてもらっています。例えば、

ば、牧草作りからこだわった大分・耶馬溪の牛乳、地元「茅乃舎」の味噌、醤油、産直の野菜、魚など。

日々の食事が楽しい時間であり、またすように季節や行事に合わせた行事食、その方の記念日にワンプレート、手作りカードや折紙等を添えたり、ペースト食でも華やかに彩る工夫を心がけています。

栄養課体制

栄養士業務（管理栄養士2名）、調理業務（栄養士・調理師6名）にパート週15時間未満4名です。調理業務の勤務時間は早出が朝5:30～14:30、6:00～15:00、遅出は10:30～19:30、栄養士業務は7:30～16:30または9:00～18:00。通園のある平日の勤務者は、栄養業務1～1.5、調理業務4.5名です。



入所利用者の皆様の食事時間は、朝食7:30、昼食12:00、夕食18:00で、早朝より夜まで下処理・調理・盛付・配膳下膳・洗浄と1日めまぐるしく業務を遂行しています。

重症児者の方は、些細なことで重篤化するため衛生管理は特に重要であり、その上、形態調整と多種多様の個別指示があり、複雑かつ繊細な業務の中で、細心の注意が必要と言えます。入所者の食事変更、短期入所の入退所、当日通園出欠確認より

変化する食事形態・食数の把握…。
時間の制約と緊張の中ですが、スタッフは「今月はインシデント・アクシデントレポート「ゼロ」を目指す！」と頑張っています。
スタッフを紹介します。



仕事の励みになっていることをひとこと。
松岡…愛娘の成長を励みに毎日フアイト!!
松田…子供が社会人となり子育ても一段落。これから更に自分磨きと趣味の旅行でリフレッシュ!
登本…利用者様の元気な笑顔を励みに美味しく綺麗で食べやすい食事作りに頑張りたい。
山藤…発注等「調理のサポート」が主

の仕事。無事に美味しい食事が出ていることが励みです。

大谷…職歴が一番浅いけど頑張って食事を作りたい。

河本…病院や高齢者施設の経験を経て今、スタッフに助けられて楽しく仕事。調理の仕事が大好き”

吉田…早起き(早出)は三文の徳と云われますが久山で三文以上の徳をget!充実生活満喫中です!

中山…イメージ以上の出来栄えの時スタッフの技量に感謝!テキパキ凄腕のスタッフは刺激的です。

栄養課の目標

当課の目標は、「利用者さんの健康を栄養・食生活で支える」

努力事項①目標を目指した取り組み、②研究・改善・工夫・努力する姿勢を持つ、③安全で衛生的な業務、④個人の強みを伸ばし活かそう、⑤力を合わせて仕事しよう。

研究活動

栄養課では、研究班活動を通してこれまでATP法を用いた衛生管理、胃腸ペースト食、増粘剤、記念日を祝う、食事容量、在宅支援、入所と通所の骨密度、リスク対策、業務のシステム化・マニュアル化等、これらを研究テーマとして検討や改善を行い、新しい試みを園内の療育研究発表会や療育学会や研究会・研

修会で発表しています。

地域支援・在宅支援

地域支援・在宅支援の一環として、これまで在宅の保護者の方に健康・栄養講座、ミニ調理実習等の学習会を実施してきました。

2018年度の学習会では、6月、5回コースで専門講義(嚥下調整①水分編②食事編、低栄養、食物繊維、腸内環境)に、ミニ栄養講座(骨折・貧血対策、野菜の摂り方、当センターの栄養と食事)、そして調理実習・レシピ集配布を実施しています。専門講義で新しい知識を、調理実習・試食会では当センターで提供しているサラダ、ソース・ディップを紹介しました。試食会では会話がはずみ、和やかに過ぎました。保護者のご意見として、「嚥下食への工夫や、ドレッシングに卸したりんご、大根、玉ねぎ、胡麻ペースト、ナッツ類の利用が新鮮だった。ソース・ディップの数々などが興味深かった」とのことです。学習会開催までスタッフそれぞれしっかり準備して趣向を凝らし、保護者の皆様にレシピや工夫についてお話しています。

今年度新しいユニフォームになりました。純白の白衣に気持ちも新しくスタッフ一同前向きに取り組んでいます。

【保護者の皆様に紹介した調理の中から】



“さつま芋と林檎のサラダミモザ風”

(さつま芋サラダに林檎の裏ごしとマヨネーズ・ヨーグルトでクリーミイに仕上げた当センターオリジナルです。これに卵の黄身の裏ごし、林檎のいちよう切りを乗せてトッピング、キュウリの薄切りをカップ風に巻いてご馳走風に)

2018年9月22日、第42回開園祭では、地域貢献事業として「救命法」II「健康フェア」骨密度測定と災害食・介護食の展示・紹介を実施しました。これからも、在宅重症児者のご家庭や地域の皆様により良い情報発信を行っていききたいと思います。

(栄養課 中山裕子)

ご協力ありがとうございました

(2018年6月1日～8月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

安部聖子、阿部昌弘・直子、天野絵里子、いのちの冠福岡教会、岩本留理子、江田千都子、太田圭亮、岡久凱、活水同窓会北九州支部、金子純雄、(株)西部クリーン、(株)那の津寿建築研究所、鷗友学園女子中学高等学校奉仕委員会、栗田昌枝、堺太郎、篠栗キリスト教会、清水展枝、匿名手作品売上げ、西加代子、日本キリスト教団福岡南教会婦人会、豊前キリスト教会、宮古聖ヤコブ教会、山口正夫、山田耕三、若松バプテスト教会

(以上3,913,428円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、梅木光男、久山療育園献金箱、松尾順子

(以上110,088円)

【施設】

一般献金

大場奈緒子、西南女学院大学短期大学部付属シオン幼稚園保護者会、久山療育園保護者会、前田文生

(以上132,500円)

【献品】

大井バプテスト教会女性会福祉グループ(食食用エプロン)、平川成(手作り品)、中原民子(セーター)、久保山信(はがき)、辻野純子(シャワー用車イス)、西南女学院大学短期大学部付属シオン幼稚園保護者会(バスタオル他)、日本バプテスト太田キリスト教会女性会(タオルエプロン他)、白水まゆみ(絵本)、草場貴子(はがき)、高瀬孝介(タオルケット他)、安井公恵(タオル)、匿名(タオル他)、(株)丸美屋内九州納豆組合(納豆)、芳岡勇(洗濯洗剤)、瑞穂キリスト教会(タオル)、ガールスカウト福岡県連盟はかた地区(タオル)、城前和徳(草刈機)、草場孝幸(麦茶ティーパック)、森岡智恵子(まくらカバー)、大坪敬子(収入印紙)

(以上3,280円)

【バプテストコロニー友の会】

ワークキャンプ街頭募金

(以上46,000円)

当センターホームページから、クレジットカードによる寄付を行えるようになりました。「寄付金をお願い」より進み、必要事項を入力していただきます。皆様どうぞご利用下さい。

事務局

メモ帳

【7月】

▽1日 ホーム開設祭 ▽6日 七夕行事 ▽8日 中久原祭りみこし来園 ▽17日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)
▽20日 福岡特別支援学校終業式
▽21日 川野直人先生を送る会(主催:大牟田恵愛園九州バプテスト神学校 久山療育園)
▽22日 施設見学会(42名参加)
▽27日 誕生会 ▽31日 余暇活動

【8月】

▽1日～2日 福岡特別支援学校出校日 ▽3日 誕生会、親交会夏季行事 ▽9日 福岡女学院中・高等部宗教部夏季修養会(22名) ▽10日 余暇活動「音楽会」
▽18日 音楽会 「ゴスペル」/こひつじの園ランチカフェ ▽20日 福岡特別支援学校出校日 ▽20日～22日 コロニー友の会主催ワークキャンプ
▽25日～26日 守る会九州沖縄ブロック研修会・母親部会 ▽27日 楠田福美さんのお別れ会 ▽28日 第2回理事会/余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)

【9月】

▽7日 誕生会 ▽14日 福岡特別支援学校PTA見学(39名)/西南中学保護者会ボランティア来園18名 ▽15日 認定看護師研修発表会 閉講式/こひつじの園ランチカフェ ▽17日 東久原敬老会
▽21日 辻野孝典さん入所(めぐみ棟) ▽22日 第42回開園祭



7月21日
(川野直人先生を送る会より)

職員の異動

(2018/7/1～9/30)

【採用】

▽川久保薫(介護福祉士)9/1付
▽上野恵美(看護師)9/10付
▽正木明美(療育員)9/26付
【退職】
▽森眞由美(看護師)7/31付

ボランティアだより

ボランティア講習会

毎年、当センターではボランティア講習会を実施しています。今年度は、対象を分けて、講習会を実施する事にしました。これまで通りの一般・学生を対象にしたものに加え、地域の中学生を対象に、センターでの様々な仕事を体験できるように考えました。

今回、久山町立久山中学校からの依頼もあり、学校の授業の一環として「職場体験学習」を受け入れることができたことを報告します。

9月、事前訪問に来た中学生4名は、大変緊張した面持ちで、練習してきたであろうあいさつ文を言葉にするだけで精一杯という感じでした。その初々しい中学生たちを受け入れるに当たり、私たちは各部署で「何を体験してもらえるか」を考えました。

まずは、久山療育園には様々な職種が働いており、そのひとつひとつを少しでもたくさん紹介し、体験してほしいと考えました。

3日間の体験学習では、看護師・介護福祉士・保育士・リハビリ・相談業務等の専門職から、仕事について話を聞いたり、実際に一部を実践してもらいました。中学生たちは、素直な表情で一喜一憂しているのが感じられました。

毎日の帰りの会では、「仕事をする上での喜びは何ですか?」「仕事をする上で、大切なことは何ですか?」など、積極的に質問があり、答えるこちらの方が戸惑うほどでした。中でも、障がいのある利用者の方々とふれあい体験では、「コミュニケーションを取る上で、言葉だけでなく表情や仕草など様々な方法があることを知った」「相手のサインを読み取ることの大切さを学んだ」などの声が聞け、何より「楽しかった」「もっとたくさんこんな体験をした方がいい」と言ってくれたことに、感動しました。中学生と言う多感な時期に、障

がいのある方々とふれあい、医療・福祉の現場を見る事で、様々な想いを感じてもらえたことは、こちらとしても大変ありがたい事だと思いました。これからも、地域の方々にセンターを身近に感じて頂き、障害福祉への興味関心を持っていただければと思います。

今回、参加してくれた中学生のみなさん、ありがとうございました。

次回ボランティア講習会のお知らせ

日時：平成30年11月10日(土) 10時半～15時
対象：高校生以上

内容：「重症心身障害者について」「センター見学」「利用者とのふれあい体験」「保護者・先輩ボランティアとのランチ懇談会など。JR篠栗駅までの送迎バスあり。終了時には、修了証をお渡します。

(ボランティア委員会 陣内晶子)

「開園祭へのご参加ありがとうございました」

にボランティアとしてご参加頂きました。登録ボランティアの方たちや毎年参加頂く方に加えて、2大学(西南学院大学、福岡女学院看護大学)の学生、職員の皆さんやいつもお世話になっている業者さん4社(株)クリニコさん、(株)明治さん、(株)ミルズさん、(株)九電工さん)など81名という皆さんが活気を運んできてくださいました。本当にありがとうございました。

ありがとうございます。

6ページでは開園祭でのボランティア表彰をご紹介します。御覧下さい。

(開園祭ボランティア担当

山田 建)



あらゆる場所でお手伝い頂きました

歩行器



開園祭も終わり本格的な秋の季節となりました。秋の収穫時期を迎え、上半期の成果と反省を踏まえつつ来期の事業計画を想定しながら下期の計画を実行する大切な時を迎えています。

社会福祉法改正に伴って、久山療育園 重症児者医療療育センターの経営環境は大きく変化し、従来と同じ発想や行動では対処できない事業構造になっています。また医療看護福祉業界では少子高齢化の影響を受け、患者・利用者の皆さんを支える職員の確保とその育成が経営上の課題となっています。従来の「護送船団方式」の横並び意識からそれぞれの法人が創意工夫を発揮した健全で自立した地域社会等と共生した事業運営が求められています。組織の体質改善を行うためには、経営層の強いリーダーシップと職員一人ひとりが問題解決策を生み出すボトムアップが重要です。そのためにはすべての職員が同じ「物差し」を共有したうえで、自由に楽しみながら仕事に邁進できる環境整備が前提となります。職員の評価も今後は「新しいことに挑戦する姿勢」が重要視されます。医療福祉の世界では「人」が最大の財産です。職員が利用者や保護者等の皆さんに喜びをもつて寄り添い、その仕事に満足感・達成感を得られる職場こそその組織はこれからも存在感が増し加わることでしょう。

今後の久山療育園 重症児者医療療育センターでは内部監査や外部監査の導入・定着、公益的取り組みの推進、人材育成と評価システムの確立、将来を展望した次期システムの導入など課題は山積しています。

この厳しい時代に次の成長のための仕組み作りをいかに構築するかによって組織も大きく変わります。更なるステージへと祈りと実践で確実に歩みを進めたいと願っています。

(M・U)